



普通科



平成 24 年度「学力向上フロンティア校」に**5年連続**指定！
自主性・自立心を育てる取組を通して、バランスのとれた人格の形成を目指します。

4月28日の土曜講座において、佛教大学教育学部長の原清治先生をお迎えし、1年生を対象に「夢を持つことの意義」、2年生を対象に「自分を生かす進路選択～大学を選ぶためには～」という演題で御講演をいただきました。



佛教大学 教育学部長 原清治先生

原先生は、学力低下の問題や携帯電話を使ったネットいじめなどを中心に論文や本を執筆されており、全国からの講演依頼も多いとても有名な先生です。

また文部科学省の委嘱委員や、京都府・市、大阪府教育委員会などの教育計画や政策立案にも関わっておられ、教育の専門家として報道番組等でお馴染みの先生でもあります。

1 夢を持つことの大切さ

夢を持って高校生活を送る人、つまり「こうなりたい」、「こうしたい」と夢を自分に言い聞かせながら人生を送っている人は、その夢が成就する可能性に大きく近づくこと、(これを心理学的には「予言の自己成就」と言うそうです。)

2 夢を人に語り、互いにつながる

人に自分について語ることを「自己開

示」といいます。自分自身をオープンにすれば、周りの人も自分のことを伝えようと思うものです。それぞれの目標が違って、お互いが頑張れる雰囲気をつくることで、それが夢の成就に不可欠だ、ということでした。受験も同じです。

『受験勉強は団体戦！』

それぞれの志望校は違って、目標をもって頑張ろうという気持ちがみんな同じ方向を向いていれば、苦しさも乗り越えられるものです。

原先生から「自分の夢を語る人は？」の声に、自分から手を挙げ、2名が1年生全員の前で堂々と自分の夢を語ってくれました。

- 看護師、または薬剤師になって、周りの人を救いたい。ドラマ等で見ていても、とてもやりがいのある素晴らしい職業だと思っています。
- 小3からやっている野球を続け、プロ野球選手になりたい。高校で3年間頑張れば可能性は十分あると思っている。



原先生の熱のこもった講演で、誰もが「よしやるぞ！」と気持ちを新たにしました。保護者の皆様にも多数聴講していただき、実りある講演となりました。



みらいの窓

～キャリア教育講演会～



1年4組 中村 実沙紀 さん

(福知山市立六人部中学校出身)

私は今日、とても楽しい時を過ごしました。講演会がこんなに面白いものだと思ったのは初めてです。それはきっと、原先生がキラキラしていたからです。原先生のお話は生き生きとしていて、体に吸収される感じでした。友達との会話でも、自分の興味のあることや夢について語っているとき、すごく生き生きとしています。夢を持つってすごいことだと改めて感じました。私の夢は15年間生きてきた中で3回変わっています。趣味もだんだん変わって、そのたびに「本当に自分のやりたいことは何なのか。」と悩まされます。しかし今日、原先生が「夢は変わっても良いんだ!」とおっしゃいました。私は気が楽になりました。今の私の夢は、スイーツや食に関係する分野で働くことです。まだぼんやりとした夢です。これからの高校生活の中で、また違う夢に変わるかもしれません。でもそれで良いのだと今は思えます。今は今。今の夢が「スイーツや食に関係する分野で働くこと」なら、今はその夢を叶えるために一生懸命頑張るだけです。

この目標ができてから、私はなんだか勉強にも普段の生活にもやる気が出てきました。夢を持つだけでこんなに頑張れるのは、やっぱりすごいと思います。最後にもう一つ、「受験は団体戦だ。」これは高校入試の時、痛感しました。仲間と一緒に頑張れると、本当にそう思います。だからこれからもお互いの夢を応援しあえる友達を作って、夢に向かって頑張っていきたいと思います。



将来の夢をしっかりと持っている人は？

2年2組 土田 侑奈 さん

(福知山市立日新中学校出身)

原先生の講演を聞いて、一番印象に残ったのは、「大学に入るのがゴールじゃない。」という言葉です。私も、心のどこかで、大学に入りたから勉強しなきゃいけないと思っていたのかもしれないなあ、と初めて気付かされました。受験に関係ないから受けなくていい、と思ってしまったら、もう人生が終わってしまうと思ってもおかしくないぐらい怖いことなんだと改めて感じました。これから授業を受けるときは、しっかり聴いておこうと思います。

もう一つは、「夢を持て。」という言葉です。この言葉は、1年生の時の講演でもおっしゃっていたのですが、その時は正直あまり心に響いていませんでした。どうせいつかは見つかるだろう、という軽い気持ちで聞いていました。でも、やりたいことが見つかった今、夢を持っているからこそ、頑張ろう、できるようになろう、と思えることが増えました。だから今回、もう一度この言葉を聞いて、心にとっても響きました。たとえやりたいことがこの先変わっても、夢を持ち続けるようにしたいと感じました。



保護者の方もたくさん参加されました